

水稻の今後の栽培管理

○ 幼穂長に合わせた圃場管理

今後の管理では、追肥や農薬散布、水管理等の作業時期を決定するために稲の「幼穂形成期」や「減数分裂期」がいつなのかを知る必要があります。

幼穂形成期：出穂 25 日前頃

減数分裂期：出穂 15 日前頃

■ 「幼穂形成期」や「減数分裂期」を知ることができれば、出穂までの日数を推定でき、出穂までの日数がわかれば、薬剤の使用時期（多くの薬剤が『出穂の〇〇日前』等の表現で使用時期を記載しています）等を把握することができます。

○ 幼穂長の確認



株元から取った茎を適当な長さで切り、外側から丁寧にむくか、カッターで慎重に縦方向に割きます。

・幼穂は、茎の中心にある白い毛のように見えるものです。（ルーペがあると便利です）
・幼穂長が下表の長さに達していたら、追肥を検討しましょう！

	幼穂長
幼穂形成期	1~2mm
減数分裂期	3~12cm

○ 追肥時期と施用窒素量の目安

品 種	追肥実施時期及び施用窒素分量 (kg/10a)	
	幼穂形成期	減数分裂期
ひとめぼれ	1.0	1.0
ササニシキ・コシヒカリ	—	1.0
まなむすめ・つや姫	2.0	—

・葉色を考慮しながら実施しましょう（営農カレンダー参考）。

※ 環境保全米は有機入り肥料のため 10 日早めに散布してください。

○ 稲こうじ病

穂ばらみ期から出穂期にかけての低温、日照不足、多雨が発生を助長します。また、窒素の多用や遅い窒素追肥によっても発生は助長されます。

◎防除薬剤：Z ボルドー粉剤 DL (3~4kg/10a) 出穂 20 日~10 日前散布

※時期がずれたり、葉が濡れていると薬害の可能性あります。

○ 倒伏軽減剤

◎防除薬剤：□ミカ粒剤 (2~3kg/10a) 出穂 25 日~10 日前散布

○ 斑点米カメムシ類 (病害虫防除所資料参考)



アカスジカスミカメ
(県内の主要種)
体長 4.6~6mm

斑点米の被害が出やすい条件

- (1) 夏期の気温が高い場合（活動が活発化、雑草等の繁殖地も繁茂）
- (2) 周辺に牧草地・雑草地がある（稲出穂前の生息地）
- (3) 水田雑草が多発した場合（ヒヤやササの穂が餌や産卵場所に）等々

◎ 薬剤による防除は穂揃期とその 7~10 日後の 2 回防除が基本です。

◎ カメムシ類は移動性が高いため、薬剤防除は地域一斉に実施しましょう。

草刈は出穂 10 日前 (7 月下旬頃) まで終了

(以降は斑点米カメムシ類を水田内に追い込む)